

私たち農林中央金庫の仕事は、
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。
そうして、90余年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、
より豊かで確かなものにするために。

持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

農林中央金庫



目次

山極壽一 総合地球環境学 研究所所長 × 奥和登 農林中央金庫 代表理事専任 3

人類を進化させた食と農の向かう先

私たちの人となり 11

農林中央金庫の価値創造モデル 13

サステナブル経営 15

財務・非財務ハイライト 17

価値を生み出す3つの事業 19

食農ビジネス 21

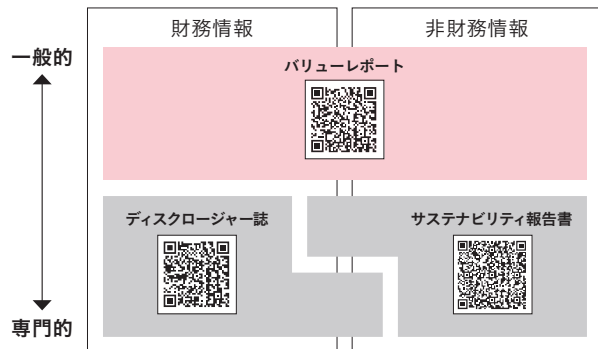
リテールビジネス 29

投資ビジネス 33

企業データ 38

当金庫で発行する統合報告書の位置づけ

当金庫では各ステークホルダーの関心事項を鑑み統合報告書を分冊にて発行しています。各誌の詳細は、当金庫ホームページ (<https://www.nochubank.or.jp/>) あるいは、二次元バーコードを読み込み、各誌PDF版をご覧ください。



編集方針

- 当金庫は、ステークホルダーのみならず、当金庫の持続可能な価値創造に向けた取り組みをご理解いただくために、このたび統合報告書を発刊しました。編集にあたっては、価値報告財団（VRF）[®]が公表した「国際統合報告フレームワーク」を参照しています。
- 本誌における記載内容は、当金庫ディスクロージャーポリシーに基づき、情報開示協議会において開示の適切性を審議し、農林中央金庫法により設置が定められた経営管理委員会・理事会に報告または付議され、最終的に代表理事（対外開示担当）が決定しています。

※国際的な企業報告フレームワークの開発を目指し、民間企業・投資家・会計士団体・行政機関等により設立された民間団体